

臨床研修修了にあたって

歯科研修をおえて

君 雅 水

2011年度・歯科研修Aコースを修了いたしました41期生の君 雅水（きみまさみ）と申します。今回、このような機会をいただきましたので、一年研修を終えた感想などを書かせていただきたいと思えます。

まず初めに研修先決定に至るまでですが、私は既婚者で子どもがいるため、研修内容の充実性と自分の目標・都合が合致した新潟大学歯科研修Aコースを選択しました。Aコースのメンバーは新潟大学出身者が14名、他大学出身者が11名で2名一組のペア診療（3名の場合もあり）を行います。私は藤井教授・指導医の元、同じ41期の黒澤先生とペアを組ませていただきました。いよいよ診療が開始し、学生時の臨床実習でお世話になった担当患者様に受付で御会いした際、「国家試験合格、おめでとう！」と挨拶をされ、ますます頑張らなければと励まされた事もありました。4月当初は自分の頭で考えていることと技術がリンクせず、長い時間を患者様に強いたり思わぬ失敗でスーパーリターンになることもありました。患者様やライターの先生方にたくさんご迷惑をおかけし、嫌な汗もたくさんかきましたが全てが糧になったと思えます。また上級医のアシストでは細かな診療テクニックや治療方針・治療手順を見て参考にすることができました。某先生（TMD・DrA）から「見学をすると術者と同じ部分の脳が活性化していて、6割が身につくそうだよ。」と教えていただきましたが、その時バキュームを持ちながら、私の頭の中では自分が形成している感覚だったので先生に言われてハッとしました。それからは見学の際、常に術者の目線で思考する癖を持つよう心がけました。

一日の診療が終わると自分の控室へ戻ります。

私は第四研修医控室で、この部屋は8名の研修医が研修……というより、休憩・ストレス発散場所として活用していました。ここは患者駐車場と技工室に面しているため、騒音の耐えない研修に不向きな場所ではありましたが、こじんまりしていて私は「4研」が大好きでした。イケてない診療に落ち込んだ後には互いに励ましあい、理不尽な扱いをされた時には慰めあい、うちの子どもも公文の宿題をさせてもらったり、おやつをもらったりと皆さんにお世話になりました。こんな事を言うとは注意を受けそうですが、本当に「7年生」のような気持ちで支えあうことができました。もちろんふざけてばかりではなく、「この症例どうしよう。」とデンタル等を前に症例検討のディスカッションがしばしば開始することもありました。

研修期間中は楽しい事も満載で、中でも指導医の誕生会を兼ねた飲み会は非常に楽しく学生の頃は恐れ多かつた藤井教授が薔薇をくわえてノリノリになっている姿を目にし、様々な都市伝説が親しみに変わったのを覚えています。

研修初日に藤井先生が「この一年は本当に早いです。充実させるもさせないも自分次第です。」とおっしゃっていましたが、その時も今も本当にその通りだと実感しています。しかし何年あっても十分ではないのではと私は思っています。一年で経験できた症例は数少ないけれど、一つ一つの



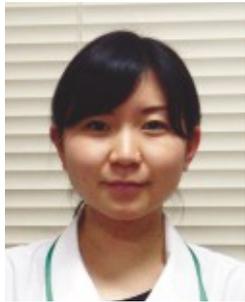
4研メンバーと

診療に丁寧に取り組むことができ、また周りを見回すことで何倍もの擬似経験ができました。

大学での研修はスキルを身につけると同時にスキルの身につけ方や基礎固めの場所だったと実感しています。有意義で充実した研修でした。一年間ご指導ありがとうございました。

臨床研修終了にあたって

千葉 麻里子



今回、臨床研修終了にあたってという題目で原稿を書かせて頂くにあたり、この研修の1年間を振り返ってみました。必死で勉強した国家試験の合格発表から、あっという間に1年が過ぎたなと改めて感じています。

私は、新潟大学医歯学総合病院歯科医師臨床研修プログラムBコースで研修をさせていただきました。前半は長岡市の立川総合病院歯科口腔外科、後半は新潟大学医歯学総合病院の矯正科でした。口腔外科と矯正科を1年間で研修するなんて、自分でも盛りだくさんすぎるとは思いましたが、とにかくこの1年間は自分の興味のあることをたくさん見て学びたい、そんな思いでこのコースを選択しました。

研修が始まった4月、オリエンテーションで先生方から「鉄は熱いうちに打て」という言葉を頂きました。研修医である今、たくさん手を動かして早く歯科治療ができるようになりたいという気持ちで一杯でした。しかし立川総合病院での研修で私が一番始めにさせてもらったのは、歯科治療ではなく外来患者様へ点滴を入れるためのラインとりでした。もちろん全身疾患や外科的処置についても勉強したいとは思っていましたが、最初からラインとりや採血をやらせてもらうことに始めは戸惑いを感じました。練習しても患者様にはう

まくできなかつた日、ちょっとしたコツをつかんだ日、毎日が一喜一憂でした。今思えば、「歯科医師も口腔内だけでなく、全身を看ながら歯科治療をしなければいけない」という指導医からの最初の教えだったように思います。その後は、一般歯科治療や口腔外科治療もたくさん勉強させてもらいました。総合病院の歯科口腔外科なので疾患を持った患者様に対する歯科治療をすることが多く、根管治療や抜歯一つとっても、歯科治療の手法だけでなく、治療中注意しなければいけないこと、薬剤の副作用など、学生の時には経験できないような様々なことを体験し学ぶことができました。本当に盛りだくさんの半年間でした。

後半は新潟大学へ戻り、矯正科での研修でした。矯正科では立川総合病院とはまた違う意味での戸惑いがありました。もちろん学生の時に矯正についての勉強や実習をしてきたわけですが、実際に外来で診療を見学させてもらっても、いったい先生が今どのように歯を動かしているのか、どうしてワイヤーをその形に曲げたのかなど、わからないことだらけでした。しかしわからないからこそ、どうしてそうするのか、もっとわかるようになりたい、私も矯正治療ができるようになりたいと思うようになりました。後半の半年間は、今後も矯正を勉強していきたいと思う大きなきっかけになったと感じています。

研修の1年間、毎日指導医の先生と一緒に患者様を看させて頂きました。口腔外科と矯正科、全く違うものであるように感じますが、患者様の「痛みがなくなった」「前歯で物が食べられるようになった」といった声を聞き、どちらも同じ医療であること、患者様の訴えに対して私たちが真摯に向き合うこと、そこに医療の本質があることを肌で感じました。まだまだわからないことだらけの若輩者ではありますが、この1年間で学んだことを大切に、今後も頑張りたいと思います。

最後に、この1年間、先生方をはじめ様々な人に支えられ充実した研修を送ることができました。本当にありがとうございました。